

慶應義塾図書館開館 100 年記念式典 式辞

たむら しゅんさく
田村 俊作

(メディアセンター所長)

本日ここに内外のご来賓のみなさまのご臨席を賜り、慶應義塾図書館開館 100 年記念式典を開催できますことは、大変大きな喜びであります。今を遡ること 100 年の明治 45 年、すなわち 1912 年、三田山上に赤煉瓦の慶應義塾図書館が誕生しました。2 年 10 カ月の工期を経て竣工した図書館は、曾禰達蔵、中條精一郎の建築設計によるもので、三田の山において最も眺望に富む東北の一郭に聳え立ち、周囲に高い建物もなかった当時は、東京府芝区の目標として遠方からも眺められました。5 月 18 日に行われた開館式は、800 名の来賓を迎えて、三田の街をあげての催しとなりました。かくして慶應義塾内外に歓迎されて誕生した図書館は、いまなお義塾を象徴する建物として広く知られ、慶應義塾社中の人々に愛されております。

初代図書館長、当時の名称では監督であった田中一貞教授は、この図書館を建築するにあたり、便利、防火、発展、採光、美観等の項目を配慮したと書き残しております。利用者の便を最大限に考え、閲覧室と書庫を壁一重とし、図書の出納のスピードを短縮することに配慮しました。また、書庫は廊下をはさんで部屋を分けた分房とし、厚い防火壁を用意して火災の際の類焼を予防することを心掛けました。発展という観点では、将来、蔵書が増えることを見越して第二、第三書庫の増築計画も考えておりました。美観に関してはいうまでもないことであります。

この田中の将来を見据えた計画がその後の慶應義塾図書館を長く支えたことはまちがいありません。予想にたがわず、昭和 2 年、および昭和 36 年と二度の書庫増築がなされ、美観に配慮した、その美しいネオ・ゴシックの建築は昭和 44 年に国の重要文化財に指定されました。関東大震災、第 2 次世界大戦の際の焼夷弾による火災等、幾多の試練を乗り越え、今日確固としてりりしい姿を三田山上に維持しているのも、田中の深謀遠慮があつてこそと考えます。

現在、慶應義塾図書館の蔵書数は 262 万冊を数えておりますが、明治 38 年に田中一貞が監督に就任した当時は、その数、わずかに 9000 冊でした。しかし、

小寺泰次郎や小幡篤次郎など慶應義塾ゆかりの方々の記念基金等によって書物を購入し、他方で星亨の蔵書 1 万 3 千冊、徳川達孝より 3 千冊余等の寄託を受けるなど蔵書の充実に努め、開館 1 年後には、はや蔵書数 5 万 8 千冊に達しておりました。その後も現在にいたるまで、歴代館長をはじめとする多くの教職員、あるいは卒業生のご尽力も相まって、営々とした蔵書構築の努力の結果、今日見るような、重要な書物や個人文庫を数多く収蔵する一大蔵書を作り上げてまいりました。

図書館は「大学の心臓」と称されます。慶應義塾図書館は学問・研究を支える重要な機能を果たすため、時代に寄り添いながら、果敢な挑戦をしてまいりました。戦後、日本で初めての大学レベルの図書館学校が慶應義塾に設けられたのを契機として、大学図書館ではこれも日本初となるレファレンス・サービスを開始しました。そしてその図書館学校を巣立った図書館員が中心となってさらに慶應義塾図書館の近代化を推し進め、昭和 45 年には、「研究・教育情報センター」を発足させて、それまで別個の組織により管理されていた、研究室図書と図書館図書の管理を一元化するという、今日なお、伝統ある大規模大学ではあまりみられない画期的な管理方式をスタートさせました。また、書庫を一部開放し、学生が自由に書物をブラウジングできるようにしました。



しかしながら、時代を経て図書館は書庫が不足すると同時に、明治時代に建築された建物では新しい

サービスを展開するにも限界がみえてきたため、三田キャンパスの教員の協力を得て、新図書館の構想が練られ、昭和 57 年、すなわち 1982 年に、念願の新図書館が竣工しました。ちなみに、本年は新図書館開館の 30 年にもあたっています。地上 7 階、地下 5 階の新図書館には、従来別々の場所に置かれていた研究室図書と図書館図書が集められるとともに、大幅なサービス拡大が基本方針とされ、無断帯出防止装置、いわゆるブックディテクションシステムを設置して、利用者が自由に書庫に入り、研究室図書であれ図書館図書であれ、自由に書物を手にできるようにしました。また、利用者への支援を充実させるべく、書誌、目録、参考図書類を揃えた大規模なレファレンス・ルームが作られ、図書館利用案内活動に力を入れ始めました。特筆すべきは、選書課の新設であります。選書業務を独立させることにより、より積極的に蔵書構築に取り組むことを意図したものであります。

慶應義塾図書館は研究上重要な書物や稀覯書、個人文庫の収集を進めて参りました。1985 年に丸善日本橋店において、貴重書展示会を開催して後、毎年、の貴重書展示はいまや恒例となり、広く知的資産の公開をしております。1990 年代後半からは、グーテンベルク聖書収蔵を契機として、貴重書のデジタル化の取り組みを進め、図書館ホームページ上でデジタルギャラリーとして公開しております。近年は、グーグルライブラリープロジェクトに参加し、著作権保護期間の満了した和書約 10 万冊をデジタル化して、世界中のどこからでもインターネット上で読むことができるようにしました。デジタル技術が知の発信を容易にしたといえましょう。

また、蔵書のデジタル化を進めることにより、図書館に足を運ぶことなく、資料、情報を得ることが可能となるような環境を作るべく、非来館型のサービスの充実力を入れております。

現在、慶應義塾図書館は、こうした非来館型サービス、来館型サービスの 2 つの視点でサービスを展開しております。来館者に向けては、アカデミックな雰囲気に入り、多くの蔵書に触れることによって、あるいは展示室で貴重書等を目にすることによって、知的刺激を受けていただけるような、また他方では、自宅にいながら図書館の蔵書を検索し、電子ジャーナルや電子書籍を利用することができるよう

な、そうした環境作りに向けて歩みを進めています。

100 年の時を超え維持されてきた歴大な蔵書を基盤に、慶應義塾に脈々と流れる福澤諭吉の精神を誇りとして、慶應義塾図書館は今後も学術研究、教育に貢献し、知の府として揺るぎない歩みを続けていく所存です。また、夏には開館 100 年記念展示の開催も予定しておりますので、足をお運びいただければと存じます。

記念式典にあたり、みなさまのご多幸を祈念申し上げますとともに、あらためてご指導、ご支援をお願い申し上げます、式辞といたします。

2012 年 4 月 28 日

慶應義塾図書館長 田村 俊作

